

各位

| | |
|---------|---------------|
| 上場会社名 | 株式会社 テイン |
| 代表者 | 代表取締役社長 市野 諒 |
| (コード番号) | 7217) |
| 問合せ先責任者 | 取締役 那須 賢司 |
| (TEL) | 045-810-5511) |

業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成24年5月15日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成25年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たり当期純利益 |
|-------------------------|-------|------|-------|-------|------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回発表予想(A) | 3,021 | 46 | 65 | 61 | 11.94 |
| 今回修正予想(B) | 2,769 | △3 | 45 | 33 | 6.54 |
| 増減額(B-A) | △251 | △50 | △19 | △28 | |
| 増減率(%) | △8.3 | — | △30.1 | △45.2 | |
| (ご参考)前期実績 (平成24年3月期) | 2,788 | △20 | △11 | △5 | △1.13 |

修正の理由

当期の業績につきましては、昨年末から本年にかけて政権交代を期に金融緩和や景気刺激政策への期待感などから明るい兆しがあるものの、全体的には欧州における金融市場の混乱や近隣諸国との関係悪化などの影響を受けて国内の経済情勢が低調に推移する中、カーアフターマーケットにおきましても、経済の先行き不透明感や不安定な雇用情勢などを背景に消費者の低価格志向や節約志向は依然として強く、また、海外においても一部の地域を除き低迷する経済情勢などを背景に消費も停滞し、サスペンション用品は引き続き厳しい販売環境となりました。

このような情勢のもと、当社グループでは、2012年1月より販売を開始した製品の対応車種拡大に努めるとともに、新製品として、さまざまな車両制御機能を追加し大幅な進化を図った「EDFC ACTIVE」、構成部品の40%以上を新設計し一層の深化を図った全長調整式車高調整式ショックアブソーバー「STREET FLEX」を2013年1月から市場投入し、引き続き需要の掘り起こしと競争力の強化を図るとともに、国内最大のアフターマーケット用品のイベントへの出展、またこれら新製品のデビューキャンペーンをおこなうなどして市場における知名度の向上に努めてまいりました。しかしながら「STREET FLEX」は車種別に順次発売となっていることと合わせ、「EDFC ACTIVE」については初回納入数が不足したことなどから当期における売上貢献度が限定的となり、さらには、これらの新製品の発売開始に先立ち、関連する旧製品の在庫調整において一部の製品に欠品が発生したことなどから、通期の売上高については平成24年5月15日に公表した予想を下回る見通しとなりました。また、営業利益、経常利益、当期純利益についても減収に伴って同予想を下回る見通しとなりました。

以上のことから、通期の連結業績予想数値を上表のとおり修正いたします。

● 配当予想の修正について

| | 年間配当金 | | | | 合計 |
|--|--------|--------|--------|-----|-----|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| | | | | | |

| | | | | | |
|------------------------|---|------|---|------|------|
| 前回予想 (平成24年5月15日発表) | — | 0.00 | — | 1.80 | 1.80 |
| 今回修正予想 | — | — | — | 6.00 | 6.00 |
| 当期実績 | — | 0.00 | — | | |
| 前期実績 (平成24年3月期) | — | 0.00 | — | 0.00 | 0.00 |

修正の理由

当社の1株当たり期末配当金については、配当の安定性を図るため、当期連結当期純利益の15%相当額と前期連結当期純利益の15%相当額との合計を配当の基準としております。

業績予想の修正で記載いたしましたとおり、売上高および損益予想については当初の予想を下回る見込みとなりましたが、期末配当金については前述のとおり連結ベースの業績に連動しており、また前期の業績が当期純損失であったことから、業績予想の修正に伴ない配当予想についても修正いたします。

なお、当期は株式公開日から10年目を迎え、また30回目の事業年度となることから、株主の皆様の日頃のご厚情に感謝の意を表し、当期の期末配当金1円に記念配当金の5円を加えて、当期の配当金を6円として上表のとおり修正いたします。

以上